

感動の場

一点の場

『安山岩と枯木』
1971年 小川原 脩 画



画面の大部分を占めているのは巨大な岩。その後ろには枯れた木が立っています。ふたつのモチーフは何を表現しているのでしょうか。

これは、1970（昭和 45）年の秋に小川原脩が知床・根室を旅した後に描いた作品です。小川原がそのときの旅について書いた文章が当時の新聞に掲載されています。「輝石安山岩質の溶岩が断崖を作って連なっている。」そこは知床の羅臼で見た風景でした。安山岩は一般的な火山岩ですが、雄大な知床の風景を形成しているその岩を、小川原は作品のモチーフに使いました。さらに知床から野付半島に向かい、尾岱沼を訪れたときに見た景色については「枯れ果ててできあがった枯捐木^{こえんぼく}だけの林とでもいおうか。巨大な生物の骸骨の捨て場みたいに奇怪で荒廃した風景があった。」と記しています。

背景の空と地面は筆を使って単純な色で塗り分け、岩はペインティングナイフで赤や青、緑の絵の具をちりばめて火山岩特有の結晶や荒々しい岩肌を表現しています。いずれ朽ち果てていくであろう尾岱沼の枯木と知床で見た安山岩を、小川原がひとつの画面に集約した心象風景といえるでしょう。

文:金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）

ハンノキハムシーギンギラ虫？ ブルーアイズ？倶知安方言名を持つ虫―

ハムシは漢字で葉虫と記し、成虫も幼虫も主に植物の葉を食べることに由来します。植物は一般的に敵に食べられないよう、葉に毒性物質や嫌な味や臭いを持たせたり、葉を硬くしたり、毛を生やすなど、食害を受けた際に特定の防御物質を作り出して相手を撃退するといった対抗手段を持っています。しかし、そんな植物の抵抗に対し、解毒能力を高めたり、大きく強い顎を獲得したり、柔らかい葉が出る時期に出現して上手に適応しているのが、特定の植物を食べることに特化したスペシャリストであるハムシのグループなのです。

街なかの公園や草むらでよく見かけるハムシの中に、ハンノキハムシがいます。金属光沢のある青黒い体色を持つ体長7～8ミリの昆虫で、名前のとおりハンノキをはじめ、ケヤマハンノキやシラカンバの葉を食べます。成虫で冬を越すことや、餌となる樹種が豊富に自生していることもあって、春先から秋の長い期間にかけて見られます。

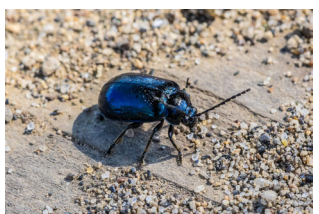
このハンノキハムシ、町内の方と話していると「ギンギラ虫」や「ブルーアイズ」といった名前で呼ばれているのを耳にする機会が多くあります。いつ頃から呼ばれているのか、山麓地域ではどの程度の範囲で呼ばれているのかなど、興味が湧きます。一般的な和名も大事ですが、地域性や温かみのある方言名も面白いですね。ほかの生き物でも「こんな方言名があるよ」というものがあれば、ぜひ教えてください。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）

ふる探訪

さと

509回



▲ハンノキハムシ

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第67回麓彩会展

1958年、小川原脩をはじめ8人の発起人により創設された「麓彩会」。町にゆかりのある作家たちの多彩な美術を紹介します。

会期：開催中～12月7日(日)

■第2展示室

しりべしミュージアムロード共同展「絵描きたちの昭和」

小川原脩記念美術館のテーマは「画家たちの旅 昭和45年」。

小川原脩、木田金次郎、西村計雄の作品を展示します。

会期：開催中～9月23日（火・祝）

アート・イベントのお知らせ

■ロビー展示

寺尾正喜 油彩画展「山麓からの便り」

第8回麓彩会展に出品した経歴を持ち、町内で創作活動をする寺尾さんの油彩画を展示します。

日時：9月4日(木)～19日(金)

会場：ロビー（無料）

■ミュージアム・コンサート

友の会アフタヌーンコンサート

歌とアコーディオンのユニット「マルカート」によるコンサートをお楽しみください。

日時：9月20日(土) 14時～15時

会場：ロビー（要観覧料・70席）※予約不要

出演：マルカート（タテヤマユキさん）

主催：小川原脩記念美術館友の会

倶知安風土館のお知らせ

■倶知安いきもの調査隊

「第4回 外来種・マダラコウラナメクジを探せ！」

ヨーロッパ原産のマダラコウラナメクジを捕まえます。最も多く捕獲するのは誰だ！？

日時：9月13日(土) 10時～12時

集合：百年の森公園※予約不要 定員：なし

講師：小田桐亮（風土館学芸員） 参加費：無料

持ち物：軍手、割り箸、飲み物、帽子など

■寺子屋ミュージアム

「除虫菊から蚊取り線香を作ろう！」

その昔、蚊取り線香は除虫菊から作られていました。蚊取り線香を作りながら、除虫菊と町の歴史について学びましょう。

日時：9月15日（月・祝） 13時30分～16時30分

場所：倶知安風土館駐車場 定員：10名※要予約

講師：紺谷貴之（風土館学芸補助） 参加費：100円（材料費）

予約受付：9月14日(日)までに電話申込（☎22－6631）

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円[400円]
高校生 300円[200円]
小中学生 100円[50円]

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円[100円]
高校生以下、美術館観覧者無料
※年間パスポート500円(発行日より1年有効)

開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)
※[]内は10名以上の団体料金
9月の休館日 毎週火曜日、振替休日のため
24日(水)、展示替えのため25日(木)～10月3日(金)
※23日(火)は祝日のため開館

後志は芸術家の宝庫！

今年は、9月23日まで「しりべしミュージアムロード共同展」が開催されています。私もこの共同展を機にニセコ町の有島記念館、共和町の西村計雄記念美術館、岩内町の木田金次郎美術館、荒井記念美術館を巡ってきましたが、隣り合う4町に5つもの美術館・文学館があるエリアは珍しいのでは？と感じました。

また、12月7日まで「第67回麓彩会展」が当館で開催されています。麓彩会は1958年に小川原脩をはじめとした倶知安にゆかりのある8人の作家により創設されました。現在の麓彩会の作家さんは、倶知安や、後志にとどまらず全道各地で活躍されていますが、この麓彩会展で倶知安に集い、素晴らしい作品を見せてくれます。

どちらも魅力のある展示となっていますので、ぜひご覧ください。

せっかくこれだけ文化芸術を身近に触れることができる環境があるので、これからも勉強のために各館を訪れたいと思います。

館長 高橋 淳之^{たかはし あつし}